

2018年度 第3回 町田市子ども・子育て会議 大地沢青少年センター検討部会 議事要旨

【開催概要】

日 時：2018年12月21日（金）18：00～19：30

会 場：市庁舎 防災情報司令室2

【議事次第】

- 1 開会
- 2 事務連絡
- 3 議 題
 - (1) アンケート調査報告
 - (2) 大地沢事業展開構想（案）について
 - (3) 大地沢青少年センター今後のあり方検討報告書（案）について
- 4 その他
- 5 閉会

【配布資料】

- 資料1 町田市大地沢青少年センターアンケート調査結果報告書
資料2 町田市大地沢青少年センター事業展開構想に関する提案
資料3 町田市大地沢青少年センターのあり方検討報告書（案）
参考資料 他自治体ヒアリング調査結果

2018年度 第3回 大地沢青少年センター検討部会 委員出席者

大地沢青少年センター検討部会 委員

氏名	所属	出欠
◎金子 和正	東京家政学院大学	出
関野 鎮雄	町田市法人立保育園協会	出
馬場 昭乃	町田市社会福祉協議会	出
土田 昇	町田市公立小学校校長会	欠
澤井 宏行	町田商工会議所	出
川口 雅子	町田市青少年委員の会	出
井上 正行	財団法人相原保善会	欠
青木 仁	町田市大地沢青少年センター運営委員会	出
安達 廣美	町内会・自治会連合会	出

◎：部会長

・備考： 傍聴者（0名）

2018年度 第3回 大地沢青少年センター検討部会 事務局出席者

氏名	所属	出欠
石坂 泰弘	子ども生活部子ども総務課課長	出
永野 修	子ども生活部大地沢青少年センター所長	出
中村 考志	経済観光部観光まちづくり課長	出
守田 龍夫	都市づくり部公園緑地課長	欠
辻 和夫	学校教育部指導課担当課長	出

子ども総務課事務局：石崎 進、吉田 織子、石川 浩二

【議事内容】

1 開会

子ども総務課担当課長：皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから 2018 年度第 3 回町田市子ども・子育て会議大地沢青少年センター検討部会を開会します。

2 事務連絡

子ども総務課担当課長：本日は、土田委員、井上委員から欠席のご連絡をいただいております。半数以上の委員の出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。また、会議の運営支援のため、(株)名豊が参加いたします。議事要旨作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了解ください。

本日の会議は、1 時間半程度を目安に進行していきたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会議の公開についてですが、本日傍聴を希望の方はいませんのでそのまま進めさせていただきます。

それでは資料の確認に入ります。

[資料 1～3 の確認]

3 議題

(1) アンケート調査報告

金子部会長：それでは議題（1）アンケート調査報告について、事務局から説明をお願いします。

[資料 1 の説明]

金子部会長：ありがとうございます。ただいまの説明に対してご質問等ございませんか。

馬場委員：今の説明では、突出してこのような特徴があるといったことはないというように聞こえました。アンケートをして、全体的に意見が分かれているという傾向はあるのでしょうか。

大地沢青少年センター所長：ものによっては 50%程のものもありますが、他のところでは高くても 30%前後位のところが多かったです。

金子部会長：年代によっては、配布数の構成比に対して回答数が3倍、それから5倍、7倍くらいになっています。その人たちの意見が反映される率が高いのですね。

子ども総務課長：市民調査を行うと、どうしても高齢者と女性の回答が多くなってまいります。今回の場合はそういったことも考慮して、クロス集計で世代別、男女別も出しています。

澤井委員：感想ですが、現状に対する考え方からは施設改善型のイメージしか湧きません。自由意見に表れていますが、意見は快適性と思い出づくりに大きくわけられるような感じがします。アンケートは現状認識でしかないのです、これらを踏まえての次のテーマなのですが、先ほど「じめじめしている」といった自由記述がありました。もう少し明るいイメージを持ってもらいたいので、ビジョンを掲げたほうが良いです。「みんなと楽しく大地沢」など、ビジョンをもとに事業展開をしていったほうが良いと思います。

金子部会長：アンケートと自由意見は少し違いますね。アンケートでは今の大地沢について聞いていますが、自由意見はこうだったら良いという希望になっています。

澤井委員：そちらに糸口があるような気がします。現状を改善するというより、イメージを膨らますようないろいろな良いアイデアがある気がします。

関野委員：アンケートの方はデータなのでなかなか頭に入ってこないですが、自由意見を見ると、37ページの最初の「センターの認知度向上に向けた広報活動について」のところで、「町田市のホームページがざっくりすぎて分かりにくい」とあります。このご意見は私も同じようなことを感じています。

また、38ページの「イベント情報の発信について」で、「多種多様なイベントを開催してほしい。TwitterやInstagramでの情報発信にも力を入れてもっと知名度を上げてほしい」というご意見がありますが、これも時代を反映しています。今はスマホで情報を得て、個人が情報を発信する時代です。「インスタ映え」という言葉もあるように、利用者が自分で情報発信して行って、利用者からの口コミでどんどん上がっていくような仕組みを取り入れていくと自然と利用者が広報してくれます。このように自由意見のところにヒントがあるのではないかと思います。

青木委員：「大地沢青少年センターを知っていますか」や、「青少年以外の方が利用できることを知っていますか」というところで、50%くらいの方が「知らない」あるいは「利用できないと思っていた」という回答があります。情報発信としてどのように

周知するかといったところが弱いと思います。自由意見のところ、その辺はこうしたほうが良いのではないかとといったところがあるので、それを取り入れたほうが良いと思います。

安達委員：飲酒関係についても、町田市としては各施設での飲酒関係はダメということになっていると思います。ただ、運営活用するにあたり、そういったものも必要になるという考えの中でこれが出てきているのかなと思います。

また、年齢層が上がれば上がるほどアンケート回答数が多くなります。どの年齢層を基準にしてこういったものを完成させていくのか非常に難しいところだと思います。この部会を4回目までやって本当に完全なものができるのかどうか、その辺は疑問が残ります。

川口委員：若い方に利用していただくと、口コミで広がるということもあります。若い人はインターネットやスマホを持っている時代です。すぐ検索する時代なので、そういったポイントを押さえた方が良いでしょう。

また、保育園や幼稚園、特に保育園は利用が多いので、小さいお子さんが心に残り、家に帰ったときに大地沢はすごく良かったと話せると、夏などに利用する人が増えるのではと思います。30代、40代の利用者が少ないので、家族でも出かけられるような魅力的なものがあると利用が増えると思います。

金子部会長：インスタグラムで興味を持って10代で使った人が、今度20代、30代になり子どもと一緒にというようになっていくと良いですね。どういったものを目標にする施設にするのか、何十代がたくさん来てくれると良いと考えていくのか、どうでしょうか。

大地沢青少年センター所長：若い頃に使っていただき、また自分の子どもや孫を連れて来ていただくことをある程度想定してできていければと思っています。

青木委員：大地沢は豪雪地帯なものですから、冬はあそこまで車で入るのはなかなか難しいですが、逆にそこをうりにできる可能性もあります。例えば雪を見ながら、コーヒーを飲み雑談ができるなど、そういうコンセプトで考えたりすると良いかもしれません。状況を逆手に使うような発想もしないといけません。

春から夏にかけては良いところです。夏の前には蛍も飛びます。秋くらいまでは何とか魅力を発信できることがあると思いますが、冬というのは難しいところがあると思います。

金子部会長：アンケート結果のデータの図は今回初めて見ますので、この次までに質問等を考えていただくかたちでよろしいですか。

子ども総務課長：次回は今年度部会で検討した内容の報告書のまとめになります。これはアンケートの結果ですので、直接報告書に反映する質問はあまりないと思います。アンケート結果についての質問があれば、回答を皆さんにすることはできます。

金子部会長：アンケートの読み方でわかりづらいものがあつたら質問していただきたいと思います。年内でよろしいですか。

子ども総務課長：年内であれば、年明けにお返事することはできます。

安達委員：完璧には把握していませんが、名前が「大地沢青少年センター」ですので、それは青少年の施設だと単純に取り上げて、認識していない人もかなりいると思います。まず、こういうものに関して、何らかのアピールする方法を考えればまた違った案件が挙がってくるのではないかと思います。もう少し周知徹底させる方法が必要です。町内会に頼んで回覧板を回したりするなど、そういったアピールをしていくのも一つの方向ではないでしょうか。

(2) 大地沢事業展開構想(案)について

金子部会長：議題(2) 大地沢事業展開構想(案)の説明をお願いします。

[資料2の説明]

金子部会長：ありがとうございました。今説明していただいたアウトワード・バウンドスクールは世界的に青少年のための野外活動を推進する団体の日本支社です。

今説明をいただきました事業について私も気になって調べたのですが、最後に書いてある、指導者育成事業の教員免許状更新講習というのは、具体化していて、この団体はいろいろなところで展開しています。これは公益財団法人でなければできません。

また、幼児自然体験施設としての誘致としては、森の幼稚園フォーラムがあります。それでは皆さんからご意見等はございませんか。

澤井委員：ホームページを拝見しましたが、このプログラムは別のところで受けたことがあります。とても面白いので、団体を呼び込むのはこういったものをメインにし、それで一つのブランドができれば人が集まってくるのではないかと思います。一方で個人の方の利用促進ですが、先ほど申し上げたように、みんなで行こうよ、

といったビジョンをつくっていかねばいけないと思います。先ほどから出ていますが、SNSを活用したほうがよいです。大地沢青少年センターがあると知られても、そこでどのようなプログラムが行われているかを認知されなければ、あるのはわかっているとしても行こうとは思いません。それはSNSで体験者が発信するしかありません。冬の場合、雪と焚火がセットのプログラムで、これを誰かがInstagramにアップすると結構輪が広がっていくと思います。また、登山の体験教室というものがあり、プロに習いながらマップを作成したり、家族で紅葉狩りを楽しんでお風呂に入って帰るといったメニューがいくつかできて、SNSを通してどんどん発信されれば家族との思い出づくりに行こうということになります。四季を利用してメニューをつくって、うまいうねりを起こしていくのも一つの方法だと思います。施設を使いやすくするというのはもちろんのことなのですが、メニューづくりも大切だと思います。思い出づくりといったことをキーワードに考えていくと良いと思いました。

馬場委員：前回、前々回も、青少年施設という一つの枠組みがあって、それ以外の人は使えないのではなかろうかという議論がありました。どこをターゲットにするかという中で、この提案というのは青少年センターを前提にしているのか、それとも青少年センターという機能を残してもこのようなことができるというように考えるのでしょうか。

大地沢青少年センター所長：この団体は大人向けの事業も行っており、青少年限定ということで行っているわけではありません。大人向けの事業もやっていますし、スキー教室や山の楽しみ方、登山の楽しみ方を幅広い年代に提供しています。青少年限定というわけではありません。

馬場委員：今の機能を一部残した中で考えるとこうなる、といったことですね。

大地沢青少年センター所長：そのようにご理解いただければと思います。

馬場委員：ということは、この提案は全体のターゲットに対する一部であり、それがすべてではないのですね。

大地沢青少年センター所長：これは一つの案であり、まだ決めたわけではございません。

健康保養地のような提案もいただいているところで、青少年だけをターゲットにした提案ではないということです。

青木委員：大地沢青少年センターの運営委員会では、去年から大地沢青少年センターのあ

り方を議論しています。その中でやはり「青少年」という名称が他の年代の方々に使いにくい部分があるのではないかとということで、青少年を主体にしながらも幅広く高齢者の方も利用できるようなかたちの施設にしていけないと利用促進は図れないだろうという意見がありました。名称は何にするかは別にして、運営委員会のほうでもそういった意思統一が図れる状況がございます。

また、いろいろな事業についても、幅広く、成人、高齢者向けのプログラムをつくっていかないと人を集めるのは難しいだろうと思います。また、それは春、夏、秋、冬それぞれ四季の魅力をどうやって市民の方に理解して来ていただくようにするのか、その辺のプログラムをつくっていかねばいけないと思います。何も持たないで参加できるようなプログラムも必要だといった意見もございます。

また、成人病予防や高齢者を対象とした健康増進のためのプログラムのようなメニューがあると、そういった面で利用しやすいのではないかとという意見があります。

もう一つは、運営委員のメンバーの中には、これを100としたら、これを1年間で全部やるのはなかなか難しいだろうという意見もあります。やはり4、5年かけて段階的に100にしていくようなことを行政の方でも考えていかないと、やっていただけの民間がなかなかないといった意見が多くありました。

金子部会長：一つずつやって、そのプログラムはどうだったかとやっていかないといけません。

青木委員：お酒の関係は、子どもを連れていく立場からすると、できればそういった施設ではないほうがよいと思います。ただ、大人だけでいく場合もあります。そういった時には場所を区切っても良いので、飲める場所があると良いというのが正直な意見です。

これも運営委員会でも意見は割れておりまして、やはり子どもの前では羽目を外すべきではないというご意見もあれば、飲める場所がないと大人で集まるには難しいというご意見もあります。結論的には先ほどのアンケートと同じ半々というところではありますが、場所を限定していけばよいという意見が多くありました。

金子部会長：国の青少年施設が29か所ほどあります。今は青少年施設でお酒が飲めるようになりましたが、利用者の事前相談会でお酒は節度を持って飲んで、缶等は必ず持ち帰るようとしております。飲めるようにするかですごく揉めたそうです。お酒についての議論は後の話になってもよいと思います。まず、このデータを見て、そ

れから自由意見を見て、私たちの意見を掲げることだと思えます。その中でお酒について出てきたら、時間や場所などを決めて節度を守っていただければ良いと思います。他はいかがでしょうか。

関野委員：保育園という立場からの意見ですが、飲める場所を限定したとしても飲んでいける雰囲気は届くのではないかと思います。時代の流れとして変革していかなければならないと思いますし、議論もなく反対ということはないですが、例えば夏休みや冬休みといった期間は禁酒にして、閑散期で子どもの施設の利用がない時期は大人向けにお酒を解禁するという時期を入れるとよいと思います。夏場や冬場でも、この1週間はお酒を解禁すると先にアピールすれば、私たちの団体などはその時期は避けようと思いますので、住みわけができるのではないかと思います。

金子部会長：事業展開はどうしてもお酒と切り離せないような気がしました。大人の集団の事業を展開するときに出てくると思います。

安達委員：お酒の問題は非常に大事だとは思いますが、仮に青少年センターだけが逆にそういう特例というかたちで認めたとしたら、他の市の施設からもそういう声があがってくると思います。これは慎重に考えた上で答えを出していかないといけません。

集客に関して、大いに利用してほしいということであれば、町田市全体の地元町内会の人たちも皆いろいろなことをやっています。そういった人たちにも案内を出して、いろいろな策を講じることはできると思います。

金子部会長：これからもいろいろな団体等が、これもできるのではないかと案を出してくると思います。ノウハウは持っている団体だとは思いますがこれだけ書いてあるので、先ほど委員の方も言われたように何年もかかって全部完結する中に、あそこはこうやればよかったということも出てくると思います。このような事業があるのではないかといった意見があれば市の方に寄せていただければと思います。

(3) 大地沢青少年センター今後のあり方検討報告書(案)について

金子部会長：議題(3)大地沢青少年センター今後のあり方検討報告書(案)の説明をお願いします。

[資料3の説明]

金子部会長：ありがとうございました。ただいまの説明で何かご質問等がありますか。

澤井委員：提言が優先順位の高い順に掲載されているのであれば、情報発信は最後にくると思います。アンケートで「知らなかった」という意見が多くありましたが、知っていたらセンターを使いますかという話です。まずプログラムが充実して、良い思い出をつくった家族や仲間がSNSで発信することによって触れる機会が増えてきて、それがうねりになってくるというのが理想ですし、そういった序列になっているのであれば、プログラムの充実を優先しながら、情報発信を最後に回したほうがよいと思います。

これが議会などにかかると周知が足りないと言われると思いますが、周知をどんなにしたところで、興味がなければ利用しないと思います。

大地沢青少年センター所長：提言1が一番重要というわけではなく、私どもとしては提言4、5といったところが重要だと考えています。本来この4と5をトップに持ってこようとする考え方もあったのですが、4、5を最後に持っていこうかというところで構成しているところでございます。

青木委員：センターの魅力ということでいろいろ記述がありますが、大地沢の魅力とは何だろうと話したところ、やはり大地沢にある自然、四季折々の季節の変化や動植物、源流などが一つの大きな魅力です。大地沢の自然をどういう風に魅力として位置づけるかと言ったら、やはり子どもから高齢の方まで市民全体の方に対して自然を守り育てるといったところもこの中に入れ込んだ中で、プログラムをつくるのが大事だと思います。自然をうまく活用しながら、自然を守り育てるといったところにしていかないと、他との差別化がうまく図れないと思います。そういった意見が多くありました。

金子部会長：大地沢で育った子どもが大地沢を大事にしてほしいですね。若いときには東京に出てしまうかもしれませんが、郷土で育った子どもが郷土に骨を埋めるということが理想です。

青木委員：アンケートを事前に見たときに、自由意見の37ページの上から2つ目「様々な人が利用できる施設について」の中に「自然が豊かで、とても素敵。あの環境を維持しつつ、運営をしてもらいたい」とあります。これは前向きな意見でとてもありがたいことだと思います。その下の「利用について」のところで、「アウトドアな事に興味がないので今後も利用する機会はないと思う。ですが、子どもたちのためには、良い場所だと思う。」というご意見があります。自由意見については、こういっ

たところを上手く拾っていくほうがよいと感じました。

川口委員：私も青少年委員をやっております。小学生を対象にいろいろなイベントに参加させていただいていますが、思い出が印象に残ると町田に戻ってくるというところで、私たちの活動もそういったところにつなげていったら良いのではないかとことで話し合っている段階です。

私たちの活動の中でも他市との触れ合いがあるのですが、隣の市の方からも、ぜひ大地沢青少年センターでブロック研修をしてほしいといったご意見があります。府中市の方はキャンプなどで子どもを連れて利用しているということも聞きます。

金子部会長：そういった大切なことは、「おわりに」の部分に書けそうですね。この提言の順番はこの通りですか。まだ変える余地はあるのですか。

大地沢青少年センター所長：今はこれで考えていますが、検討することはできます。

金子部会長：民間活力を導入していくことは合意を得たと思います。そういったこともしっかりと入っていますし、それぞれご意見はあると思いますが、それを集約して「おわりに」の方に入れるなど検討していただければと思います。

他にご意見はございませんか。

関野委員：青木委員の言われた言葉が響きました。自然を守り育てるとおっしゃいましたが、センターのビジョンみたいなものがどこかにほしいと思いました。文言にするのを見る人の心に響くのではないかと思います。大切にすることをこういった報告書でもアピールできれば良いと思います。

金子部会長：他にいかがでしょうか。

馬場委員：提言については、今までの議論をすくい上げて良く書かれていると思います。

これ以上の細かいことは書かないのでしょうか。

金子部会長：いろいろな幅をつけておいた方が良いでしょうね。提言がたくさんあるとどれだけ課題を抱えているのかと思われてしまいます。

馬場委員：急にひなた村のことが出てきている部分が少しひっかかります。

子ども総務課長：ひなた村については、市の施設の中でも他のところと差別化を図らなければいけないということで入れているのですが、唐突なところがありますのでそこは検討させていただきます。

4 その他

金子部会長：なければ進行を事務局にお返しします。

5 閉会

子ども総務課担当課長：金子部会長ありがとうございました。次回の会議ですが、1月16日（水）18時からとなります。場所は今回と同じ、市庁舎3階防災情報司令室2となります。以上をもちまして、2018年度第3回町田市子ども・子育て会議大地沢青少年センター検討部会を閉会します。皆様、ありがとうございました。